

ひふみん

校長 合田 伸太郎

みなさんは、お茶の間の人気者「ひふみん」こと加藤一二三（九段）を覚えているだろうか。一度見ると忘れられない風貌、インパクトのある話し方、ユニークなおじいちゃん棋士（将棋を指すことを職業とする人）とされている人が多いと思いますが、彼は天才中の天才、神武以来（じんむこのかた）の天才、つまり、歴史上まれに見る記録と記憶に残る天才棋士なのです。

中学生棋士は、長く伝統のある将棋界でも、わずかに5人のみ。加藤一二三は、史上初の中学生棋士であるとともに、藤井聡太が14歳2か月で史上最年少のプロ棋士となるまでは、14歳7か月の加藤の記録が62年間もの長きにわたって最年少記録でした。

余談ではありますが、平成28年12月、藤井聡太のデビュー戦の相手は、加藤一二三（九段）でした。これは奇跡的な巡り合わせであるといわざるを得ません。結果は、藤井聡太が、年齢差62歳6か月という史上もっとも年齢差のある戦いを制しました。

加藤は、その半年後、平成29年6月20日、竜王戦昇級者決定戦に敗れ、63年間におよぶ現役生活に幕を下ろしました。現役として史上最高齢の77歳5か月のときです。

加藤一二三のすごみは、その息の長さです。まず、対局時間が10時間を超えることもある極めて過酷なプロの戦いを、史上最年長の77歳まで続けられること自体があり得ないことです。そのうえ、プロの世界は実力の世界。勝ち続けることができれば、いつまでも現役でいることは可能ですが、実力のない弱い者は強制的に去らねばなりません。加藤の場合は、最高峰の称号の一つである「名人」まで獲得しています。ふつうであれば、そこまで上り詰めた棋士は、自ら引退の幕引きを行います。しかし、彼は規定によって引退せざるを得なくなるまで、言い換えると、プロ棋士のレベルで勝てなくなるまで戦い続けることを選んだのです。

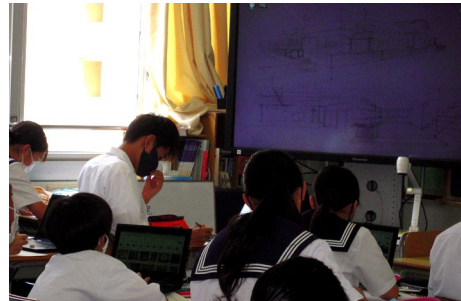
最後に勝ったのは、77歳になったばかりのとき。この勝利は最高齢記録です。それから引退までの5か月は、孫よりも年下の棋士たちに負け続ける日々。どれだけ負けが込んでも、機会がある限りは力いっぱい指し続けました。負け続けているのに、もう77歳なのに、既に栄光をつかんでいるのに、なぜ戦うことにこだわりつづけるのか……。

加藤一二三は信念の人です。60年以上現役を続け、2500局以上指しても、極めることができない将棋を、深く愛し、敬い、追求しようとする気持ちがあるのです。彼は言います。「私の場合は、千回以上負けているんです。なんと言っても『負け数一位』ですから……。たくさん負けるには、それ以上にたくさん勝たなければいけない。千回負けというのは60年以上現役を続ける『強さの証』だと自負しているわけです。」

なんと格好いい言葉でしょう。そんな生き様に心打たれるのです。

 タブレットの活用が進んでいます

仕事でも家庭でも、社会のあらゆる場面でICTの活用が日常のものとなっています。子どもの可能性を広げる場所である学校においても、1人1台タブレット端末の活用が進んでいます。一人ひとりにIDとパスワードが配られ、きちんと自分で端末を管理できるよう指導しているところです。子どもたちが探究心をもって、主体的に学習を進めるためのツールとして、今後もさらに活用の幅を広げていきたいと考えています。





朝の読書の様子は・・・

桜町中学校では、毎月の第3週に朝読書を行っています。
この朝読書は、生徒が活字に親しむという目的もありますが、一日の始まりを沈黙の空間で過ごすことで、気持ちが落ち着くと言われています。

図書室では、様々なジャンルに本を取りそろえています。
ぜひ、手にとって見てください。



「部活動激励会」が開催されました！

今年度の部活動激励会は、各部の部長が放送で決意表明をしました。

6月26日の陸上、ハンドボール、卓球、バドミントンを皮切りに高松地区の中学校総合体育大会が開催されています。今年度は、感染症対策として無観客での実施となっており、部の顧問、管理職以外は会場に入れません。お子様の活躍する姿を見ることはかないませんが、引き続きご支援・ご協力をお願いいたします。

HP上では割愛させていただきます

【7月の主な予定】

7月8日（水）短縮授業、部活なし
7月12日（月）短縮授業、部活なし
7月16日（金）学期末三者懇談、（～19日）
7月20日（火）一学期終業式
7月21日（水）夏季休業日（～8月31日）

【8・9月の主な予定】

8月20日（金）2年登校日
8月23日（月）1・3年登校日
8月13～15日 学校閉庁日
9月1日（水）2学期始業式
9月15日（水）中間テスト発表

7月の【下校完了時刻】18：15